
家族の日常 8 しおらーめん

nano

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家族の日常8 しおらーめん

【Nコード】

N3718U

【作者名】

nano

【あらすじ】

とある家族の日常を次男の視点で語る。

調理編

それは後日、弟と父さんそれぞれから聞いた話だ。

その日弟は学校に行かないというので、俺だけで小学校に登校した。弟は学校に行かなかった事を初めて後悔したそうだった。

なぜか。

それはその日父さんも休みだったからだ。

家に父さんと弟。

二人きりになったのはその日が初めてだったのだ。

俺の父さんと兄ちゃんと弟の母さんが再婚してしばらく経っているのにだ。

しかしそうなっていることに始めは気が付いていなかった。

親は登校時間よりずっと早く出勤していくことが多く、弟が学校に行かないと決めた日は、朝早く仕事に行った母さんに電話して欠席の連絡を学校にしてもらっていた。

それゆえ家の中に誰かいるという概念が全くなかったようだ。

もちろん兄ちゃんも中学に行って家にはいない。

前日夜遅かった父さんが昼近くまで寝ていた事が、さらに存在を消していたのだろう。

突然リビングに現れた父さんを見て、弟は本当に心臓が止まるほど驚いたそうだ。

息も忘れるほど固まった後、弟は無人の兄ちゃんの部屋へ逃げた。

その行動に父さんが傷ついたのは言うまでもない。

父さんは灰になったように落ち込んだ後、気を取り直してどうにか仲良くなる方法はないか考えた。

しかし、名案は浮かばない。

仕方なく母さんにメールでSOSを送ると、返信には『ゆっくり腰をすえていきましょう。時間を掛けてじっくりと』とだけ。

結局解決策は授けられなかった。

それでも父さんはめげなかった。
兄ちゃんの部屋のドアの前へ行き、弟を昼ごはんに誘った。

「潤也くん、一緒にご飯を食べないだろうか？」

そのセリフだけで一時間粘ったそうだった。

観念した弟は静かにドアを開けた。

冷蔵庫にはいつでも一人分、レンジで暖めるだけで食べられる昼食が用意されている。

弟もさすがに一人でそれを食べるわけにはいかないと思い悩んだらしい。

父さんが外食に誘ったが、それには首を横に振った。

そうして二人で無言で悩み続けた結果。

「よし、俺がつくってみよう！」

父さんは全く料理ができない、絶望的にセンスがないのだ。

それを知らない弟は頷き同意した。

もし俺がこの状況に置かれたとしたら、絶対に料理させなかった。

俺は自分がそれなりに料理できるのもあるが、できなかったとしても意地でもデリバリーにする。

実際二人暮らしの時も、俺が料理出来ない時はそうしていた。それくらい料理の腕前はヒドイのだ。

そして案の定、弟はその餌食になった。

酷く不味い塩ラーメンを二人で食べたそうだった。

食べたといってもほんの僅か。

インスタントの塩ラーメンが何故そんなことになるのか分からないが、壮絶な味だったようだ。

俺には想像がつく。

同じくその話を聞いた母さんは爆笑していたが、一度食べてみれば

笑えないだろう。

未だ家族の中で父さんの料理の味を知っているのは俺と弟だけだ。そうして父さんと弟は二人で会話もなく、ゲンナリした午後をリビングで過ごした。

「ただいまー、あつ父さん。今日休みだったんだ」

「ああ」

「じゃあ一緒にゲームしようよ！」

「ああ」

「じゃあランドセル置いてくるー」

自室に上がると弟がついて来ていた。

「潤も一緒にゲームしよー、あつ、潤の担任の先生から宿題預かってた」

「お兄ちゃん、お腹すいた」

「え？ お昼ごはん食べてないの？」

弟は首を振った。

「食べたのに、お腹すいてるの？」

頷く弟を不思議に思つて、キッチンへ降りていつて状況を察した。そこには父さんの激戦の後が残されていたからだ。

「父さん、もしかしてお腹すいてる？」

リビングでテレビを眺めていた父さんがようやくこちらを見て黙って頷いた。

二人からこの日の詳しい話を聞くのはもう少し後になるのだが、こ

の時はとりあえず何も聞かず、晩御飯のことも考えて、ホットケーキを焼いて三人で食べた。

もちろん誰が作ったかは言うまでもあるまい。

幸い弟が塩ラーメンを嫌いになることはなかったのは、それが原型をとどめないほどの品物を口にしたからだろう。

そして弟はこれまでと違った警戒心を父さん対してもったようだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3718u/>

家族の日常8 しおらーめん

2011年10月9日08時50分発行